

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	・各教科において問題解決的な学習に取り組み、児童が主体的に考える活動を意図的に計画し、集団で伝え合い、高め合う授業を目指す。	中 間 評 価	・問題解決的な学習を取り入れることで、互いに考えを出し合い、話し合えるようになってきた。	最 終 評 価	・問題解決型の学習により、考えを伝え合えるようになった。高め合いを実現するために教員の指導力向上が求められる。
環境づくり		・特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組むことができるように、まなびの教室の教員と協力して教室環境を整備する。		・特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組めるように、まなびの教室の教員との連携をより一層密にしていく。		・今後もまなびの教室の教員と連携を密にして、児童が落ち着いて学習に集中できる環境を整えていく。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学 平仮名の読みについては、全ての児童が習得している。平仮名を書くことは、ほぼ全児童が習得している。片仮名の読み書きは定着していない児童がまだ数名いて、文や文章の中で適切に使えない様子が見られる。</p> <p>学 書く力が少しずつ身に付いてきている。語と語や文と文の続き方に注意して、つながりのある文章を書くことに苦手意識をもつ児童はまだ多い。</p> <p>学 語彙が乏しく、言語事項の習得に個人差がある。</p>	<p>・片仮名の読み書きを習得していない児童、片仮名で書く語の理解が十分でない児童がいて、文や文章の中で適切に使用することに課題がある。</p> <p>・自分が書いた文を読み返す習慣が十分に身に付いていない。</p>	<p>・身近にある片仮名で書く語を毎日少しずつ取り上げて扱い、文や文章を書く場面を意図的に設定する。</p> <p>・視写や作文指導など文章を書く機会を設ける。また、書き出しの文を統一したり友達の書いた文章を紹介したりして参考にできるようにする。</p>	<p>学 日常的に書いたり読んだりすることで、身近にある片仮名で書く言葉を覚えることができた。</p> <p>学 新出漢字の学習を2月までに終え、残りの期間を反復練習にあてた。3月末までに既習漢字の書き取りができるようにする。</p> <p>学 家庭学習で音読に取り組み、授業でも一文読みや段落読みの機会を多く取り入れたことで、明瞭な発音で文章を読むことができるようになった。</p> <p>学 短作文を書く機会を多く設けたり週末日記を書いたり友達の文章を紹介したりしたことで、文章を書くことに抵抗感がなくなり進んで書こうとする態度が育ってきた。</p>
	算数	<p>学 10以内の加法及び3つの数の加法についてはほぼ全ての児童が理解できている。繰り上がりのある加法の計算について理解が十分でない児童が見られる。</p> <p>学 10以内の減法については、ほぼ全児童が理解しているが、計算には時間のかかる児童がまだ見られる。</p>	<p>・繰り上がりのある加法の計算の仕方についての理解が十分でなく、操作や言葉などを用いて表現することが課題である。</p> <p>・10の補数がすぐに出てこないことがある。</p>	<p>・算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。操作したことを言葉で表現する活動を授業に位置付ける。</p> <p>・毎時間の最初に10の補数の学習を行い、数に対しての苦手意識を取り除く。</p>	<p>学 算数ブロックやおはじき等の半具体物を用いた活動を多く取り入れたことで学習内容の理解が高まった。しかし、手遊びの道具になってしまうこともあり操作を活動を取り入れるには工夫が必要であった。</p> <p>学 授業の最初に10の補数の学習に取り組んだことで、減法に対しての苦手意識を取り除くことができた。</p>

学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学 「話すこと聞くこと」では、話すことについては意欲的だが、聞く力は十分身に付いているとはいえない。話し方についても、よい勢や適切な声の大きさで、分かりやすく話せる児童は多くない。</p> <p>学 「書くこと」については、新出漢字を丁寧に書いて練習するなど意欲的に取り組む一方、定着には個人差がある。また、文章を書く際、助詞の使い方がまだ定着していない児童がいる。</p>	<p>・集中して、大事なことを落とさないように話を開けるよう指導する。</p> <p>・「書くこと」については、自分の書いた文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに気付き、正す力を身に付けさせる。</p>	<p>・授業中に、尋ねたり、応答したり、小グループで話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。また、話す人の方を向いて話を聞く習慣を付けさせる。</p> <p>・さまざまな学習場面で「視写する」「自分の思いを書く」活動を取り入れ、書いたものを声に出して読み返すようにする。</p> <p>・個に応じた指導を行う。</p>	<p>・話を聞く姿勢は概ねできてきている。しかし、内容を正確に捉えられていなかったり、自分事として話を聞けなかったりする。</p> <p>・話を始める時には、「話します。」「説明します。」等と呼び掛け、皆が「はい」と返事することで意識を集中させる。</p>	<p>学 話し手の方を向き、話を聞こうとする姿勢は、多くの児童に身に付いてきた。内容の理解については、事前にポイントを示せば、ほとんどの児童が正確に理解することができるが、自分から話の中心を意識して聞くまでには至っていない。</p> <p>学 授業中に自分の考えを説明する際には、相手意識をもち、分かりやすく話そうとすることができるようになった。</p> <p>学 自分が書いた文章を、読み返す習慣がついてきた。</p>
	算数	<p>学 「数と計算」領域では、ほとんどの児童が2位数の加法及び減法について、計算の仕方を理解している。</p>	<p>・たし算やひき算の筆算は、ほとんどの児童が理解できている。しかし、一位数の繰り上がりや繰り下りの計算がまだ身に付いていない児童もいるので個別指導が必要である。</p> <p>・自分の考え方を説明したり、友達の考え方と比べたりする力がまだ不十分である。集団解決場面を充実させる。</p>	<p>・基礎基本の学習を充実させる。具体物を操作したり、図に表して考えたりするなどの活動を取り入れる。</p> <p>・小グループの活動や、児童相互のコミュニケーションを重視した学習スタイルを定着させていく。</p> <p>・個に応じた指導を行う。</p>	<p>・たし算やひき算の計算の仕方は、ほとんどの児童が定着している。</p> <p>・自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりする力は身に付いてきた。さらに自分の考えを深められるようにしていく必要がある。</p> <p>・かけ算九九を確実に習得できるよう、毎日リズムに乗って唱えたり、九九を使ったゲームをしたりする。</p>	<p>調 かけ算九九やたし算、ひき算の演習を、繰り返し行うことによって、基礎的な計算の力が付いた。</p> <p>学 問題解決型の学習を行うことによって、課題に対して自分の考えをもつことができるようになった。また、小グループでの学習や話し合っって問題を解決していく学習スタイルが定着した。</p> <p>調 「量と測定」の領域においては、定着に課題が見られたので、復習を重ねていく。</p>
3	国語	<p>調 「話を聞き取る」の平均値が全国の平均を上回る結果であった。「書くこと」に習熟していない児童が多く、文章を書くための基本的なスキルがまだ十分に身に付いていない。</p> <p>学 文字を丁寧に書く意識が低い。「話すこと・聞くこと」については、個々のもつ力が、集団として発揮しきれない場面も見受けられる。</p>	<p>・文章を書くための基本的なスキルと、文字を美しく丁寧に書こうとする意識を高めるため、日常的、継続的に個別指導を重ねていく。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」の力が、日常生活の中で生かされていない。互いの話に耳を傾け、話の要点を適切に掴み、理解し表現する活動を計画的に取り入れる。</p>	<p>・文章を書くために必要なスキルを補うため、国語の時間を軸に、定期的に書くトレーニングを重ねながら、書く活動に慣れさせていく。</p> <p>・全ての教科、領域の土台となる国語科の力を高めるため、国語の時間はもとより、教育活動全体を通して「話す・聞く力」「書く力」を伸ばす。</p>	<p>・文字表記にかかわる基本的事項（筆圧、句読点、段落等）を個別に指導しながら、個々の技能（書く力）を高める。</p> <p>・説明や報告等、目的に応じて人前で適切に話す力を高めるため、朝の会等にスピーチを取り入れる。</p> <p>・他教科・領域等との関連を図りながら、グループや学級全体で話し合い、意見の共通点や相違点に気付かせる。</p>	<p>学 「書く力」を定着させるための教材を使用し、主に1、2学期を重点に指導を継続した。句読点や段落等を確認しながら、時間とボリュームを意識しながら書く姿が見られるようになった。</p> <p>学 日常的に「話す、聞く力」を意識させるための指導を継続し、学級ごとに工夫し実践した。その結果、話を聞く態度の向上も見られるようになるなど、学びの基盤を整えることができた。</p>

	算数	<p>調平成29年度の結果では、「数と計算」の領域で区平均を下回る結果であった。</p> <p>調数直線を用いた問題や、長さやかさなどの量感理解が必要な問題の正答率が低い傾向が見られた。</p> <p>学単元ごとのレディネステストなどの結果を見ると、既習内容の定着度に課題のある児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定義や題意を理解するなど、国語の力と密接につながりのある教科の特性上、国語の力を高めながら算数の力を伸ばす必要がある。 図や数直線を苦手とする児童が多い。 算数に苦手意識をもっている児童が見られ、学力の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式する際に積極的に図や数直線等を用いて指導する。 思考力や表現力を高める教材を計画的に取り入れ、算数を活用する問題や、理由や考え方を説明したりする問題に取り組ませる。 習熟度別少人数指導の利点を生かしながら、個々のレディネスに応じた指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語や記号（等号、不等号、分母、分子など）を確実に押さえるとともに、簡単な加減法の計算に習熟させる。 日常の事象から見いだした算数の問題を、図や式などを用いて自ら問題解決することができるようにする。互いに伝え合う活動を取り入れながら、自己解決を目指す。 	<p>調基礎となる計算の習熟とともに、算数を活用する問題や、理由や考え方を説明する問題を扱った教材を使用し、思考力や表現力の向上を図った。文章問題の題意を読み取って解くことに課題が見られるため、進級に向けて、復習を重ねていく。</p> <p>学図や数直線を用い、既習事項をもとにして問題解決を図ることができるようになった。</p> <p>学習熟度別少人数の指導により、特に下位層に対して細やかな指導ができた。</p>
4	国語	<p>調領域「書くこと」の正答率は、28年度は区の平均を5ポイントほど下回っていたが、29年度は9ポイントほど上回っている。目的に応じて、定められた字数で作文することができるようになった。</p> <p>調他領域が28年度より正答率を大きく上げている中、領域「読むこと」の正答率だけはほぼ横ばいで、区の平均正答率を下回っている。特に「物語の内容を読み取る」ことに課題が見られる。</p> <p>学字を丁寧に書くことや、少し長い物語を自分の力で読むことにあまり関心がもてない児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少し長い物語でも、自分の力で読むことができるようにする。 新出漢字を正確に書けるようにする。 国語の学習はもちろん、全ての教科で読みやすい字を書くことを心がけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の単元では、音読を重視する。内容や情景、心情が的確にとらえられ、それを自分の声で具体的に表現できるようになるまで練習を重ねる。 学校図書館支援員と連携して、読書指導に力を入れる。ブックトークや並行読書を通して、より多様なジャンルの本を手にとれるようにする。 新出漢字の練習では、なぞり書きを丁寧に行うことで、細部まで正しく書こうとする意識を高める。 全ての教科において読みやすいノートの作り方の指導に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を考えることで、台詞を工夫して読もうとする児童の姿が見られた。授業の導入では、本時で扱う場面の音読をしている。 学校図書館支援員にブックトークをしてもらったり、読書の時間を設けたりしている。 新出漢字の読み書きを習得できていない児童がいるため、間違いやすい漢字と比べて正しい方を選ぶなどして定着を図る。 読みやすい字で書くことを心掛けられるよう、丁寧に書けた時に称賛している。 	<p>調課題であった「物語の内容を読み取る」では、新宿区学力定着度調査において区の平均正答率を上回ることができた。物語文の単元で、音読を重視したり、ブックトークや並行読書をしたことが良い方向にはたらいいた。</p> <p>調「内容がよく伝わるように、意見文の段落構成を改善することができる」では、区の平均を10ポイントほど下回っていた。伝わりやすい意見文と伝わりにくい意見文を提示し、比較検討することで、書き方を身に付けることができるようにしていく。</p>
	算数	<p>調29年度は、全ての観点において、正答率が区平均と全国平均を上回る結果となった。特に「数量や図形についての知識・理解」では、28年度の正答率を10ポイント以上上回った。</p> <p>調領域別にみると、「図形」領域の正答率が区の平均を下回っており、十分身に付いているとは言えない状況である。</p> <p>学問題を解く速度や正確性に個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の定義や性質を正しく理解することができるようにする。 はやく、正確に問題を解いたり、より効率的な解き方を考えたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「垂直と平行」「四角形」「直方体と立方体」の学習において用語の意味を確実に理解させるとともに、繰り返し復習させる。 自分の考え方を説明するときに、それまでに学習した用語を適切に使うよう指導する。 一定の時間内に正確に問題を解く練習を定期的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「垂直と平行」では、様々な図形の中から垂直や平行になっているものを探するなどして学習の定着を図り、約9割の児童が確実に理解することができた。 友達に分かりやすく伝えるため、既習事項をもとに自分の考えを伝えることを指導している。 タイマーを用いて時間を区切り、素早く正確に問題を解く練習をさせている。 	<p>調課題であった「図形」では、新宿区学力定着度調査において区の平均正答率を上回ることができた。</p> <p>調「数と計算」の「命数法で書かれた数の記数法での表し方を理解している」では、区の平均を8ポイントほど下回っていた。「億と兆・がい数の表し方」について、今年度中にもう一度復習することができるようにする。</p>
5	国語	<p>調昨年度は、「話し合いの内容を聞き取ること」や「漢字を書くこと」の正答は全国の平均を上回っていた。しかし、「漢字を読むこと」や「文章の内容を読み取ること」、「調べたことを発表すること」、「作文を書くこと」は下回っていた。</p> <p>学国語への関心が低く、授業や学習課題に対して消極的である児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きを徹底させる必要がある。 文章を詳しく読解する学習を、多く取り入れる必要がある。 継続的に作文を書く習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して、漢字の読み書きの練習を行う。 文章の要点を掴ませることや児童が読んだ本を紹介する活動を取り入れる。 日頃より短作文を書くことで、作文への抵抗をなくし、書き方の基本を身に付けさせる。 国語辞典や漢字辞典を常備し、言葉への関心や学習への意欲をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、漢字の反復練習に取り組んでいる。 文章の要点を考えさせたり、読書の時間を設定したり、文章を読むことに慣れる機会を多く設けている。 短作文を書く機会を設けている。5W1Hや段落を意識させている。 国語辞典を使い、言葉に関する興味をもたせている。児童によっては時間がかかることがあるので、辞典に慣れさせる活動をさらに設けていく。 	<p>調新宿区学力定着度調査において、特に「漢字を書くこと」と「言葉の学習」に課題が見られた。「漢字を書くこと」では、第5学年の漢字は何度も練習してきたことで、ある程度書くことができていたが、第4学年以前に学習した漢字が書けないことが分かった。また、「言葉の学習」では、敬語や同音・同訓の漢字の使い分けが身に付いていないことが分かった。既習の漢字や言葉の学習について反復練習をする機会を多く設けて、身に付けさせていく。</p>
	算数	<p>調全般的に全国の正答の平均を上回っていたが、「図形」が少し下回っていた。</p> <p>学基本的なことは身に付いているが、別の方法を考えたり、考えを発表したりすることが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分度器やコンパスの使い方や読み方などを確実に身に付けさせる必要がある。 図形に関して、具体物や半具体物等を活用し、イメージさせ、定義等を理解させる必要がある。 発表することに慣れさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習をしていくことで、基礎基本を身に付けさせる。 分度器やコンパス、定規などを日頃から携帯させ、使用させることで、使い方に慣れさせる。 具体物や半具体物を示したり、実際に作図させたりする活動を通し、図形のイメージをもちやすくさせる。 発表する機会を多く設けていく。友達の考えを聞くだけでなく、意見や質問をするなど、一方的な発表にならないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を振り返りながら、反復練習に取り組んでいる。 分度器やコンパス、定規などを、適切に使用できるようになってきている。 図形のイメージをもたせるために、具体物や半具体物を使用したり、ICT機器を使ったりしている。 聞き手に伝わっているかどうかを確かめながら、自分の考えを発表するように指導している。 	<p>調新宿区学力定着度調査において、「小数のかけ算・わり算」、「分数のたし算・ひき算」、「合同」に課題が見られた。計算の仕方や小数点の位置、最大公約数や最小公倍数について反復練習をすること、間違えたところを見直すことを通して、基礎基本を身に付けさせる。また、「合同」に関しては具体物や半具体物を用いてイメージしやすくしたり、既習したことを一つ一つ確認しながら作図に取り組んだりすることで、図形の見方に慣れさせていく。</p>

6	国語	<p>調平成29年度の国語の正答率は77.0%と、全国を3.7ポイント上回っている。観点別に見ると、すべての観点の正答率が全国を上回り、特に「話す・聞く能力」「読む能力」の正答率が全国を大きく上回った。</p> <p>調四分位分布を見ると、最も割合が高いのはA層である。また、全国と比べると、A層は10.1ポイント上回っており、D層は11.5ポイント下回っている。C層とD層を合計した割合は35.1%であり、学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については、意味や熟語などを理解し、文脈に沿って読む力だけでなく、正しく書く力を育てる必要がある。 物語文や説明文が長文であっても、登場人物の心情や筆者の主張を読み取れるようにする。 学力下位層の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 文を書く際には、漢字自体の意味を考えながら、正しく使えるように指導する。また、他教科において書く活動を取り入れられたり、宿題の中で繰り返し文章を書かせたりすることにより、漢字を書くことに対する抵抗感をなくす。知らない漢字に出会ったら辞書を引く、迷ったら辞書で確認するという能動的な学習習慣を身に付けさせる。 新聞記事をスクラップし、内容を要約したり感想をまとめたりする活動を継続し、読む能力と書く能力をつける。 ワークテストの直しを通して理解を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟度が上がった。1学期のワークテスト「漢字のまとめ」では、9割の児童が全国平均点を上回った。今後は既習漢字の復習を進めるとともに、残りの1割の児童の定着度の底上げを図っていく。 自分の考えや感想を書くときの文章量が少し増えた。新聞を読み、記事を見付け、それに対する考えを書く活動を続けていく。 	<p>調目標値に対して「敬語（尊敬語）の使い方」のみ5ポイント下回っていた。謙談語との違いを明らかにして、理解を確実にしていく。</p> <p>調物語文や説明文の読み取りと、漢字の読み書き、意見文などの作文に関しては全体的に目標値を上回った。</p> <p>学主語述語を明確にし、自分の考えを文に表すことに抵抗をもつ児童が減った。また、全体的に作文の分量が増え、すすんで書く児童が多く見られるようになった。</p>
	算数	<p>調平成29年度のの正答率は67.4%と、全国を5.3ポイント上回っている。観点別に見ると、すべての観点の正答率が全国を上回り、特に「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。</p> <p>調四分位分布を見ると、最も割合が高いのはA層である。また、全国と比べると、A層は18.2ポイント上回っており、D層は0.7ポイント下回っている。C層とD層を合計した割合は27%であり、学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形や算数用語の定義について正しく理解する必要がある。 より速く、効率的に問題を解決し、その考えを相手に分かりやすく説明できるようにする。 学力下位層の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の導入時に、既習事項を確実におさえる。 根気強く解く態度を養うとともに、問題解決方法について話し合う経験を積ませる。 ワークテストの直しを通して理解を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、既習の図形や算数用語の定義などを確認し、確実な理解を促している。 問題解決的な話合いの経験がまだ不足している。教材研究を行い、主体的に学習できるよう授業を工夫する。 ワークテストの見直しをしたり、返却時にすすんで間違いを直そうとしたりする児童が増えた。 	<p>調「分数÷分数（約分なし）」「比較量・基準量が分数の場合において比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ」問題で目標値を5ポイント下回るという結果が見られた。分数÷分数の意味について再度押さえ、理解を確実にしていく。</p> <p>調「速さ」や「図形」に関しては目標値に対して全体的に大きく上回った。</p>
音楽	<p>学各学年とも、自分が演奏したり歌ったりすることには意欲的である。しかし、友達の演奏をよく聴いてよさを見つけたり、思いをもって演奏や歌唱に取り組んだりすることには、意欲的でない児童が多い。また、鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏では、指使いなどの技能に差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の発表は一生懸命できるが、友達の演奏をよく聴くことができない児童がいる。 鍵盤ハーモニカやリコーダーについて習熟の度合いに差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの実態に応じて、丁寧に一斉指導をしたり、グループ活動をしりながら基礎・基本を身に付けさせる。 歌唱では、児童が自分の思いを伝え合い、声の響きに気を付けたり歌い方を工夫したりしながら、伸び伸びとよい表情で歌うことができるようにする。 授業の場で、友達のよさを感じ取って自分も伸びようとする児童の姿を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じて自力解決の時間を増やしたり、指導方法を工夫したりすることによって、意欲的に活動する児童が増えてきた。 鍵盤ハーモニカやリコーダーの基礎・基本的な技能については、おおむね身に付いている。 100周年の行事をきっかけとして、児童の思いを引き出し、その思いを歌で表現できるよう支援していく。 	<p>学歌唱ではペアで向き合って気持ちを込めて歌ったり、器楽では互いに聴き合ってアドバイスを合ったりする活動を毎時間取り入れた。その結果、友達の奏でる音に関心をもって音楽を鑑賞する力が付いてきた。</p> <p>学自分の思いを表現する活動について、低学年の歌唱では、動作化を取り入れ、より表現を楽しんで行えるようにした。また全学年でリズムサークルを取り入れ、拍に合わせて自分の考えたリズムを表現した。</p> <p>学リコーダーや鍵盤ハーモニカにおいては、個人差が大きいので、引き続き、指使いなどを個別に指導していく必要がある。</p>	
図工	<p>学各学年共に関心・意欲は高い児童が多いが、高学年では題材によっては意欲をもてない児童が見られる。発想や構想の能力には個人差がある。他の児童の作品を見たり、会話したりする中から新たな発想を広げている児童が多い。創造的な技能については題材ごとに指導をしているが、道具の使い方が身に付かない児童がいる。鑑賞活動については、意欲的に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲に個人差が見られる。 道具の使い方が身に付きにくい。 鑑賞活動に意欲がもてない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な題材を取り入れ、児童の関心・意欲を引き出す。 既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。また、題材によっては既習事項を生かした学習を設定する。 授業において互いの作品を見合う時間を取り入れ、見るポイントを提示したりするなど、思いを交流する活動を大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入を工夫したところ、意欲的に活動に取り組む児童が増えてきた。 道具の使い方は、身に付いている児童とそうでない児童の差が出てきた。既習の道具を使う際は、児童間で教え合いながら使い方を復習させる。また、使い方を掲示してすぐに見られるようにしている。 鑑賞カードや鑑賞の方法を工夫し、異学年の作品を見る機会を取り入れた。他の児童の作品を意欲的に見ている児童が増えてきた。 	<p>学意欲的に活動に取り組んでいる学年が多い。</p> <p>学電動糸のこぎりや彫刻刀、カッターなどを繰り返し使うことで道具の使い方が身に付いてきている。</p> <p>学低、中学年は積極的に互いの作品を見合っている姿が見られた。また、見付けたよいところを自分の作品に生かしている児童もいた。展覧会や美術鑑賞教室を通して、作品を見ることに意欲的になっている児童も増えた。</p>	
特支	<p>学個人差はあるが、発達特性から、コミュニケーション能力や読み書き、運動能力全般に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 在籍学級の観察及び個人面談等を通して、児童の実態を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の課題を的確に捉え、個に応じた指導を充実させる。小集団指導では、コミュニケーション能力や運動能力を高める活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の改善が見られ、在籍学級での適応につながっている児童がいる。 小集団指導では、ルールや決まりを意識して活動できるようになってきた。今後も、自分の意思を表したり相手の話を聞いたりする等の活動を設定していく。 	<p>学在籍学級との情報交換及び連携によって、学級での適応力が向上した児童がいた。小集団指導では、ペアで協力する活動を継続して行い、コミュニケーション能力が高まった児童もいる。個の課題の改善に向けて、引き続き指導をしていく。</p>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。